

神戸市外国語大学

学長 東谷 穎人 殿

財団法人 大学基準協会
会長 清成 忠



貴大学の相互評価結果について

標記に関し、平成16年3月5日開催の評議員会および理事会において、相互評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合しているものと承認されましたのでご通知いたします。具体的な評価結果につきましては、同封の「神戸市外国語大学に対する相互評価結果」をご覧ください。貴大学に対する認定期間は、平成16年4月1日より7年間（平成23年3月末まで）となります。大学基準適合認定証と認定マークについては別便にて送付いたします。

また、今回、「勧告」あるいは問題点の指摘に関する「助言」の付せられた大学におかれましては、「勧告」の趣旨に添った対応策を講じられるとともに、「助言」の趣旨も可能な範囲で参酌され、その改善実施の概況に関して「改善報告書」をお取りまとめの上、平成19年7月末日までに本協会会長宛にご提出いただくこととなっております。

なお、評価プロセスにおける各分科会での評価の状況をお示しするものとして、「参考意見」並びに「評定一覧」も同封しておりますので、ご参考にしていただきたく存じます。

同封文書

- 1 「神戸市外国語大学に対する相互評価結果」
- 2 「神戸市外国語大学に対する参考意見」、「神戸市外国語大学に対する評定一覧（参考）」

以上



神戸市外国語大学に対する相互評価結果

I 認定の可否

貴大学は 2003（平成 15）年度相互評価の結果、本協会の大学基準に適合していることを認定する。

II 相互評価結果の概要

[1] 総 評

1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢

貴大学は、終戦直後の 1946（昭和 21）年に設立された神戸市立外事専門学校を前身とし、1949（昭和 24）年に外国語学部を英米、ロシアおよび中国の 3 学科を設置して神戸市外国語大学へと昇格した。「外国の言語の習得を通してその言語が使用されている地域の文化、社会、法律、経済などの広い視野から研究することを目指す、いわゆる『外国学』の確立」を創立以来の理念・目標としており、特に教育においては、実践的な外国語教育を通して「広い国際的知識を備えた人材の育成」を行うことを目標にしている。このように、貴大学の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的は明示され、また、それらは高等教育機関として適切である。さらに、単なる外国語教育にとどまらず、「外国学」の確立を目指していることが、貴大学の最も大きな特色として打ち出されている点は評価できよう。

しかしながら、「外国学」というのが、例えば、地域研究・比較教育・国際関係学等とどのような違いがあるのか、さほど明確にされていないのは気にかかる点である。すなわち、グローバル化しつつある現代社会に役立つ人材を養成するために、実践的語学教育に加えて何らかの専門教育を行わなければならないという意識は教員間で広く認識されているようであるが、それがどのようなものであり、また、どのようなディシプリンを施すべきか、明らかな方向が確定されるまでには至っていないように見受けられる。これはもとより困難な問題ではあるが、自治体の財政事情の悪化に伴い多くの公立大学の存立が問われるに至っている現在、貴大学のアイデンティティの確立のために、引き続き真剣に取り組むべき課題ではないだろうか。

2 自己点検・評価の体制

1992（平成 4）年に「自己点検・自己評価システム検討委員会」が発足し、翌年から、大学全体の点検・評価を進めていくために作られた「自己点検評価実施委員会」

によって、自己点検・評価報告書や研究教育活動報告書の発行など具体的な活動が行われてきた。特に1996（平成8）年3月刊行の自己点検・評価報告書『神戸市外国語大学の現状と課題』において、今後取り組むべき5点の主要施設整備計画を明示し、その後の6年間で、その中のほぼ3点を実現した点や、今回の自己点検・評価報告書においても、問題点の改善・改革への方策が具体性を以って提示されている点は評価できる。

しかし、これまでの自己点検・評価のための取り組みは、継続的・長期的とは言えない面があることも指摘されており、今後は、理念・目的に照らし合わせて継続的に点検・評価され、改善策を実行に移していくことが望まれる。

3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

ロシア学科、中国学科およびイスパニア学科において履修の階程制や単位の一括認定を導入していることや、外国との積極的な研究交流あるいは研究誌の旺盛な発行に努めていることなど、外国語大学としての特徴を十全に活かした教育や研究が行われており、今後とも伸張させて行かれることを望みたい。

一方、学科によっては留年率の高い年次があることや、大学院修士課程の入学定員充足率が低いこと、1・2年次の退学者が少なからぬ割合で出ていることなど、改善への配慮が必要な問題が見受けられる。とりわけ、図書館の学生閲覧室が狭あいで、座席数が非常に少ない点は早急な改善が必要である。今後は勧告・助言の指摘をふまえながら、参考意見にも配慮し、貴大学の発展に向けたより一層の改善努力をしていくことが期待される。

[2] 勧告・助言

総評に提示した事項に関連して、特に改善を要する点や特筆すべき点を以下に列挙する。

一、勧告

- 1 図書館及び図書等の資料、学術情報について
 - 1) 収容定員に対する図書館学生閲覧室座席数の割合が低いので、早急に是正されたい。
- 2 学生生活への配慮について
 - 1) セクシュアル・ハラスメントの防止に関する規程がないので、早急に整備されたい。

二、助言

- 1 大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標について
 - ① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

2 教育研究組織について

① 長所の指摘に関わるもの

1) 実践的な外国語教育を行うための組織が、学部、学科、大学院研究科ともに十分に整備されている点は評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

3 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について

(1) 教育研究の内容等

① 長所の指摘に関わるもの

1) 学生に着実かつ高度な外国語能力を習得させるために、かなり多数の外国語科目の履修を義務づけ、しかも1年次から最終学年次まで階程制を採用していることは評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

(2) 教育方法とその改善

① 長所の指摘に関わるもの

1) ロシア、中国およびイスパニア学科では、専攻語学の単位について一括認定制を採用していることは、学生が基礎力を身に着け、次の段階に進むだけの適性を有しているか否かを厳正に判定しようとするものであり、語学の習得は階程を追って進んでいくべきものという当該大学の教育方針が具体的な形で示されており評価できる。

2) 授業の成績評価に関する問い合わせ期間の設定や、学習支援アドバイザー制度としての相談窓口の開設は、学生、教員双方にとって好ましい効果が期待でき、評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

1) 地域関連科目として開講される外国語については、整備の必要が指摘されているものの、過去の様々な経緯から適切な名称が付されていないので、学生にとって分かり易い科目名に改めることが望まれる。

(3) 国内外における教育研究交流

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 2001（平成 13）年度から派遣留学補助制度を設け、学生の留学を促進している点は推奨すべき事項である。
- 2) 日本文化・学術に深い関心と高い学識を持つ外国人教員を積極的に採用している点は国際的教育・研究交流にとって極めて望ましいものと評価できる。
- 3) 神戸研究学園都市近隣の7大学1高専のあいだで国内交流の柱としてUNITY（大学共同利用施設）が設置され、特に「特別提供科目」が実効を挙げている点は推奨に価する。

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 外国人学生の受け入れ実績がやや乏しい主原因として、外国人に日本語を習得させる制度がないことが挙げられるので、留学生の受け入れ体制を充実させるための早急な改善が望まれる。

4 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について

(1) 教育・研究指導の内容等

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 大学院の具体的主要目標の一つとして、修士課程修了後に大学教員となるべく養成することを掲げ、実績を挙げている点は評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

(2) 教育・研究指導方法の改善

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

(3) 国内外における教育・研究交流

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 中国やスペインとの教育・研究交流をはじめ、積極的に海外との交流を展開しており、特にスペインのアルカラ・デ・エナーレス大学との交流協定は、単なる研究留学にとどまらず、現地の学生に日本語・日本文化を教えるという能動的交流であり、評価できる。
- 2) ロシアや中国の有力大学と教授の交換を続けていることは、一方向の外国人研究者の受け入れ、あるいは、外国への派遣よりも、教育、研究の両面において密度の濃い交流をもたらしており、評価できる。

- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

(4) 学位授与・課程修了の認定

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

5 学生の受け入れについて

- ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 2002 (平成 14) 年度に県下の主要な高校に入試問題などに関するアンケート調査を行い、入試問題の質的改善に努めていることは高く評価できる。
- ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) ロシア学科の学部 2 年次・4 年次と、イスパニア学科の学部 2 年次で留年率がかかなり高いのは、履修規程が厳しいこともあるが、学生への対応などにより一層の改善が望まれる。
 - 2) 外国語学研究科ロシア語学専攻、中国語学専攻、日本アジア言語文化専攻の定員充足率が低いので改善が望まれる。

6 教育研究のための人的体制について

- ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 専攻語学を担当する専任教員に占める外国人教員の割合が高い点は、理念・目的・教育目標等に合致するものとして評価できる。
 - 2) 近年、女性教員が着実に増加していることは評価できる。
 - 3) 修士課程開講科目の 9 割近くを、また博士課程の全開講科目を、それぞれ専任教員が担当している点は、責任ある指導体制を維持するものとして評価できる。
- ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 国際関係学科において、専攻語学の専任教員による担当科目数の割合が低いので改善が望まれる。
 - 2) 専攻語学の授業が基本的に約 40 名のクラスで行われているので、小規模化に向けて早急の改善が望まれる。

7 大学院における研究活動と研究体制の整備について

(1) 研究活動

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

(2) 研究体制の整備

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 個人研究費、研究旅費の額が不足しており、また、かつてあった国内留学制度も廃止されていることから、教員の外部資金獲得に対する自助努力を図るとともに、教員が充実した研究活動を行うための研究環境整備に対する自治体の積極的施策が望まれる。

8 施設・設備等について

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 図書館の問題を除けば、研究・教育環境としての施設・整備状況は高く評価できる水準にあると評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

9 図書館及び図書等の資料、学術情報について

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 図書館における蔵書数の多さや学生 1 人あたりの蔵書冊数が同規模大学と比べて高い水準に達していることに加え、中国学関係書、エスペラント関係書、「黒人文庫」など全国的に見て第一級のコレクションを備えていることは高く評価できる。

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

10 社会貢献について

① 長所の指摘に関わるもの

- 1) UNITY（大学共同利用施設）を発足させるイニシアティブをとり、それ以来、幅広い大学間交流及び地域との連携を積極的に図ってきた点は評価できる。

- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

1.1 学生生活への配慮について

- ① 長所の指摘に関わるもの

1) 学生の正保証人をもって組織された「伸興会」が様々な学生生活支援の活動を行っている点は高く評価できる。

- ② 問題点の指摘に関わるもの

1) 学生相談に来る学生数が急増する傾向があるにもかかわらず、相談日が毎週2日間に限られているのは不十分なので、改善が望まれる。

1.2 管理運営について

- ① 長所の指摘に関わるもの

なし

- ② 問題点の指摘に関わるもの

なし

1.3 事務組織について

- ① 長所の指摘に関わるもの

なし

- ② 問題点の指摘に関わるもの

1) 公立大学に共通する問題ではあるが、現在事務職員は、嘱託職員以外はすべて定期異動により大学に配属された市の事務・技術職員で構成されており、大学固有の専任職員はいない。今後大学間の競争が激化する中で、大学運営・国際交流・入学者選抜等、高度の専門性を備えた事務職員の確保・養成を早急に進めることが望まれる。

1.4 自己点検・評価等について

- ① 長所の指摘に関わるもの

なし

- ② 問題点の指摘に関わるもの

なし

以上

神戸市外国語大学に対する参考意見

相互評価の過程のなかで、分科会の主査報告書に、以下のような意見も含まれていた。参考までに列記する。

1 教育研究組織について

- ・ 大学院研究科において、従来の外国語専攻に加えて、近年いくつかの専攻が増設されているが、将来、いかなる社会のニーズに応じてどのような研究科の編成を目指すのか、一貫性をもった長期ビジョンを打ち出すには至っていないように見受けられる。
- ・ 第2部を将来どのように位置づけるべきか、早期の抜本的見直しが望まれる。

2 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について

- ・ 第2部の英米学科の授業科目編成からは、どのような学生を育成しようとしているのか明確な方針が読みとりにくいように思われる。
- ・ シラバスについては2003（平成15）年度にかなり改善されているが、今後もその一層の充実に努められたい。特に、進級に大きな影響を与える12単位一括認定の外国語科目では、統一した成績評価基準を提示すべきではないだろうか。
- ・ オフィスアワーやFDへの教員の取り組み姿勢にややばらつきが見られるので、改善が必要ではなかろうか。なお、実地視察の際の学生インタビューの面談において、学生から非常勤講師についてもオフィスアワーを設けて欲しいとの要望があった。
- ・ 研究交流については、外国の諸大学との教員・学生の交流に関する協定が次々と結ばれているものの、教員の交流、学生の交流ともに、「外国語大学」としては実績がまだ十分でない印象を受けるのでより一層の改善が望まれる。実地視察における学生インタビューの席でも、複数の学生たちから、交換留学の制度をもっと充実させて欲しいとの要望が出された。
- ・ 必須専攻語学について時間割を固定し、曜日による偏りの無いプログラムが保証されている点は、語学教育にかける強い意気込みが感じられ、評価できる。

3 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について

- ・ 博士課程は設立以来まだ比較的日子が浅いこともあり、それぞれの分野が相互に刺激し合い一つの新たな創造的知性を生み出すという理想の実現にはまだ至っていない面があるようなので、アイデンティティの確立に向けた努力が望まれる。
- ・ 博士課程において、新たな学際的領域の開拓に取り組むためには、学生に対する教員の集団指導体制の整備をもっと積極的に進めてもよいように思われる。
- ・ 修士課程において教育の重点目標の転換を模索しているようであるが、研究内容・指導方法からは、余り明確な方向付けは窺えない。例えば、高度専門職業人

養成に主要目標をはっきりと移し、それに適合するように教育内容・指導方法を改めるということも必要な時期になっているのではないだろうか。

- ・ 厳格な学位授与方針が示され、良心的に実施されていることは評価できる。

4 学生の受け入れについて

- ・ 学部の入試において、神戸を中心とした周辺地域からの応募者が多いことは、公立単科大学としての地域貢献が十分になされ、学生募集方法も適切であることの表れと見ることができるが、社会のニーズや学生気質の急速な変化に対応するためには、AO入試なども視野に入れた新しい形態の特別選抜の導入が望まれる。
- ・ 博士課程の入学者に対する他大学出身者の割合が少ないのは、学生選抜の制度上の問題はないにしても、博士課程の教育・研究活動状況を学外に広く知らせる努力が不足している等の問題はあるように思われる。
- ・ 学部等の入学者受け入れ方針は適切に公示されている。
- ・ 外国語能力の判定に重きを置き、さらに、人文・社会科学への関心・知識を試す学生選抜方針・方法は、当該大学の理念・目的に合致するものであると評価できる。
- ・ 2003（平成 15）年度からセンター試験成績、個別学力試験成績、合格者の最高点、平均点、最低点について受験生からの問い合わせに応じる体制を取っている点は、選抜基準の透明性を高める方策として推奨できる。

5 教育研究のための人的体制について

- ・ 専任教員が他大学に非常勤講師として出講する場合は厳密な手続きによって行われており、貴大学での任務に支障はないようであるが、出講数を「担当コマ数を超えない範囲に抑える」という基準は検討が望まれる。

6 研究活動と研究体制の整備について

- ・ 『神戸外大論叢』が年 7 分冊で発行され、その他『研究叢書』と『研究年報』が年 1 冊、『外国学研究』が年 3 冊、さらに『ワーキングペーパー』が出されており、高い水準の研究成果の発表が着実に続けられている点は十分に評価できる。
- ・ 教員の学外における研究成果について、その発表の実態が大学として確実に把握されていないのは残念な点である。

7 図書館及び図書等の資料、学術情報について

- ・ 図書館及び学生会館の増築に対しては、実地視察での学生インタビューにおいても学生から強い要望があったので、早期実現が望まれる。
- ・ 電子ジャーナルの整備が遅れているので改善が望まれる。
- ・ 資料費の減少傾向が明らかである以上、教育・研究上の必要図書の選定、優先順位付けを、全学的体制でもっと厳しく行うことも必要ではないだろうか。

8 社会貢献について

- ・ 社会人向けの大学院特別選抜制度を設け、社会人の生涯学習もしくはキャリアア

ップのニーズに応える方策の実現が望まれるのではないか。特に、当該大学の特性を考えるなら、自己点検・評価報告書にも指摘のあるとおり、英語教員の再教育のためのコースの早急の実現が期待される。

- ・ 1971（昭和 46）年以降市民講座を継続して開催してきた点は高く評価できる。

9 学生生活への配慮について

- ・ 2000（平成 13）年度より休止している外大育英会奨学生の新規採用を、2003（平成 15）年度から再開する予定とのことだが、その実現が是非とも望まれる。
- ・ 学生への経済的支援、セクシュアル・ハラスメントの防止、就職指導、課外活動に対する支援の体制が相当程度整備されている点は評価できる。
- ・ 学生便覧の記述が分かり易く丁寧な点は評価できる。

10 管理運営について

- ・ 環境の変化に対応して、大学のあり方全般にわたり、かなり抜本的な改革を早急に進める必要が生じることが予想されるので、今後は、明確な意思決定を効率よく行えるような管理運営組織への転換を進めていくことが求められるのではないだろうか。

以 上

神戸市外国語大学に対する評定一覧（参考）

	大学		財政
	達成度評定	水準評定	水準評定
教育研究組織	A		
大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備	教育研究の内容等	A	2
	教育方法とその改善	A	3
	国内外における教育研究交流	B	
	通信制大学等		
大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備	教育・研究指導の内容等	B	3
	教育・研究指導方法の改善	B	3
	国内外における教育研究交流	A	
	学位授与・課程修了の認定	B	3
通信制大学院			
大学・学部等の学生の受け入れ	A	2	
大学院研究科の学生の受け入れ	B	2	
大学・学部等の教育研究のための人的体制	B	3	
大学院研究科の教育・研究のための人的体制	B	3	
大学院における研究活動と研究体制の整備	研究活動	B	2
	研究体制の整備		3
大学・学部等の施設・設備等	B	2	
大学院研究科の施設・設備及び情報インフラ	B		
図書館及び図書等の資料、学術情報	B	3	
社会貢献	A		
学生生活への配慮	B	3	
管理運営	B	3	
財政公開			
財務比率			
事務組織	B		
自己点検・評価	B	2	

①上記各項目の達成度および水準の評定は、次の分科会での評定をもとに相互評価委員会で決定した評定を示している（大学＝大学評価分科会第2群）。達成度評定にあたっては、Bを標準とし、達成度が高い場合をA、低い場合をCとする。水準評定にあたっては、3を標準とし、水準が高い場合を1、低い場合を5とする。具体的には、相互評価結果ならびに参考意見のコメントを参照されたい。

②財政の項目の水準評定は、大学財政評価分科会での評定をもとに判定委員会で決定した評定を示している。その評定にあたっては、2を標準に、それより優れていれば1、劣っていれば3を付している。具体的には、相互評価結果ならびに参考意見のコメントを参照されたい。